

福島大学附属図書館報

書 燈



No. 33

2004.10.01 発行

〒960-1293 福島市金谷川1番地

TEL (024) 548-8083

http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/

福島大学附属図書館

本は買って読む

熊 沢 透

「人間のカラダは、ほぼ水分とアミノ酸でできています」とは、試しに買ってきて目の前に置いてあるアミノ酸飲料のラベルの弁である。人体成分の専門家じゃないのでそれがホントかウソかは判らない。けれども、とりあえずいろんなことを捨象してそんなふうに言ってよいなら、「人間のナカミは読書体験でできています」。これはホントである。

僕という人間が誇りうる「ナカミ」を備えているのかと問われるとその答えには窮する。とはいえ僕のものの方、感じ方、考え方、これでもそれなりに充実させようとしてきた蓄積には、もちろんこれまでに経てきた読書体験が大きく関わっているだろう。読書体験は実体験に劣るといふ考え方もあるけれども、活字を通じた「体験」からも自分の内側に滴り落ちる雫を血とし肉としてわがものとするためにこそ、知性はある。

然るべき時期に読んだ然るべき本は、思い起こすだけでもあらためてたじろいしてしまうほどの感銘を、ときとして与えてくれる。たとえば高校時代にロジェ・マルタン・デュ・ガールの『チボー家の人々』を読んで、時代に生きるひとびとがそれゆえにこそ流す血と涙の意味を知ることがなければ、あるいは僕は社会学者になろうとは思わなかったかもしれない。『鳳仙花』のなかで作家中上健次は、妻と子を遺して死にゆく男にこんな末期の夢を見せた。「山が青々茂つとる

ところに、おまえがようさん子供抱えておるんじゃ。どうするんな、何を食わずんな、と言うたら、おまえが海も山もあるわいと言うんじゃ。おお、そうじゃね、と俺も言うた」こんなくだりを読んだとき心に残るなものかは、学問で知る物事とは異なるけれども、僕にとってそれらは確かに繋がっている。

『ファール昆虫記』の完訳版は、学問的には決して恵まれた立場にはなく、薄給に飢えた時期をすら過ごしたファールを終生突き動かした、研究へのまぎれもなく真摯な熱意を伝えて余すところがない。今でもときおりこのフランスの敬愛すべき一田舎教師は、地道に綴られたその大部の行間から僕の怠惰をたしなめてくれるのだ。『ロウソクの科学』として本になっている科学の講演を、マイケル・ファラデーは、聴衆である子供たちへのこんな言葉で締めくくっている。「諸君の生命が長くロウソクのように続いて同胞のために明るい光輝となり、諸君のあらゆる行動はロウソクの炎のような美しさを示し、諸君は人類の福祉のための義務の遂行に全生命をささげられんことを希望する次第であります（矢島祐利訳）」。「イギリス」の「科学」の効用に対する無邪気な信仰告白として、僕はこれを嗤うことはしない。1861年のクリスマス、苦学を経て70歳を過ぎた大科学者が演壇にロウソクを灯しながらそう説くとき、そこには真理を考究して生き

目 次

- ・巻頭言 本は買って読む……………熊沢 透 (1)
- ・思い出の一冊『猫背の王子』……………林 修 (2)
- ・留学生Library Tour ～James E. Walker Library～
……………鈴木真理子 (3)
- ・旧制高商外国人教師ゲーテンビーの
講義ノートを受贈……………小椋正行 (4)
- ・こんなものがあったのか！
～素敵写真集がありました～……………蓮沼徹也 (4)
- ・学内教官著作寄贈図書紹介
『太宰治と外国文学—翻案小説の「原典」へのアプローチ』
……………九頭見和夫 (5)
- 『開かれる地平—変わるふくしまの教育』……………高野保夫 (5)
- 『関東・東北境界城言語地図 常磐線・磐越東線グロットグラム』
……………半沢 康 (5)
- ・その他の学内教官著作寄贈図書リスト…………… (5)
- ・情報探索マスターを目指せ！……………学術情報係 (6)
- ・『シラバス参考図書コーナー』を設置。
ぜひご利用ください！……………情報サービス係 (7)
- ・使ってますか？オンラインサービス！
……………学術情報係 (7)
- ・今野源八郎旧蔵書—全点整理完了
……………情報管理係 (7)
- ・日曜開館と開館時間の延長（平日：22時まで）
ついに実現！……………情報サービス係 (8)
- ・図書館の案内役はあなたです！
—カウンターの内側から—……………田中信也 (8)

(2)

てきたひとのなかになお燃え続ける責任感と理想が煌めいていたに違いない。

「書燈」にこう書くのは憚られるのだけれど、本は買って読んでほしい。水を飲んで暮らしても、学生は本を買って読むべきだ。さいわい僕が通った大学も大学院も、それぞれ有名な古本屋街から遠くないところにあったから、僕は頻繁に古本を買った。研究に駆り立ててくれる専門書、眠れない夜に寄り添ってくれる文学、ひとびとの表情を留め、僕たちを異国へ誘う写真集……。魅力的な本屋の書棚の前に佇むだけで、読みたい本、手に入れたい本はたくさん見つかるはずだ。その全部はしかし、とても買えない。手にしたブックリストのなかにそう簡単には手に入らない本が挙がっている場合もある。そんなときにこそ、図書館というもののありがたみがわかる。買える本を買う努力がな

されているからこそ逆に、僕たちを待ちながら図書館の書庫に眠る一冊の価値がいや増すのである。

『公園は俺のもの』(スティーヴン・ピーターズ)という密かに探していた本があった。面白いけれどもいささか格調の低いこの本が杉並区立図書館にあたりまえに所蔵されているのに気がついたとき、僕は心からそう思った。表紙の挿絵からして恥ずかしいので、カウンターに座っていた素敵な司書の手前、『日本近代化の基礎過程(上)』(中西洋)という実は自分でももっていた圧倒的にものすごい専門書と『溶鉱炉』(ベルント&ヒラ・ベッヒャー)というなんともマニアックだが大好きな写真集と一緒に、平静を装って借り出した。こんな見栄と背伸びもまた、書物とまみえる自分の地平を押し広げるうえで決して無益ではない。

思い出の一冊

思い出の一冊

思い出の一冊

中山 可穂 著 『猫背の王子』

林 修

国内外を約20回ほど引っ越ししてきた私にとって、「思い出の一冊」とは「引っ越し時に処分しない本」と同義語だ。もちろん「一冊」とは限らないが、中山可穂の『猫背の王子』はまちがいなくその「一冊」で、おそらく私が死ぬまで自分の手元に置いておく本だろう。

中山可穂は1960年名古屋生まれの小説家。彼女の知名度がいったいどんなものなのかは知らない。93年のデビュー以来今までコンスタントに作品を発表しているところを見ればすでに中堅作家なのだろう。そしてそのデビュー作が『猫背の王子』。

この本を買った理由はただタイトルにひかれたからだ。王寺ミチルというナルシシクな若いアングラ役者の話であること、そしてレズビアンを扱った、いわゆる「ピアン系」の小説であることを知ったのは読み始めてからである。

言っておくが、私は凡作『GO』や駄作『蛇にピアス』のように特異なテーマやシチュエーションを扱った作品は好きじゃない。扱っているふりをして甘えていることがほとんどだからだ。

中山は「レズビアン」なんていう陳腐なテーマには甘えてはいない。「自分とセックスしている夢を見て、目が覚めた」主人公ミチルは、狂ったように愛し、むさぼるようにセックスし、血を流すように裏切り、捨て、それが自らの受難と浄化であるかのように破滅へと進んでいく。彼女は『蹴りたい背中』をうじうじと眺めているわけでも、「好きだと思う」からといって『キッチン』でバナナをぼけーっと食ってるわけでもない。

たしかに、処女作のためか、文章もそれほどこなれ

ていないし、構成も弱いかもしれない。ストーリー展開も、かなり大袈裟で、泥臭く、大時代的に思えるかもしれない(愛と破滅……なんて演歌の世界でしょ、ある意味?)。しかし、中山はそんなハンディキャップを、文字通り下北沢のアングラ芝居(死語?)の如く、ハイパー・リアリスティックなパワーに変えて、ひたすら突っ走っていく。そのパワー、スピード感ときたら!(その後の作品は文章が達者になったかわり、初期のパワーにかげりが見えてきた。残念……。でも最新作『弱坊師』は中山流『近代能楽集』として新境地を開拓している。)

もしあなたがジェンダー・コンシャスを自負する人間で、「レズビアニズム」を母性や前=エディプス的二項関係とリンクさせて寛容な理解を示しているようなお人なら、この本は読まないで欲しい。あなたには、頭でっかちの大学院生が書いた課題レポートのように退屈な米国人「ピアン系」作家で充分だ。ぬるま湯的な癒しが欲しいあなたには、優等生がかくれタバコをして大騒ぎしているような「ばなな」お嬢様か「万智」先生でいいだろう。しかし、もしあなたが読書という行為に胸を締めつける、またはえぐられるような快感(?)と疲労を求めているなら、是非読んでほしい。それでもしこの作品に不感症だったときは、今後いっさい私の視界には現れないでほしい。なぜなら『猫背の王子』は私が棺桶まで持ってゆく「思い出の一冊」だからだ。

(経済学部助教授)

思い出の一冊

思い出の一冊

留学生Library Tour ～James E. Walker Library～

教育学部4年 鈴木真理子



MTSU (Middle Tennessee State of University) の図書館 James E. Walker Library ! (以下 MTSU 略)

こんにちは、教育学部4年教員養成課程所属英語専攻の鈴木真理子と申します。2003年8月から12月までの秋学期と2004年1月から5月までの春学期を MTSU で留学してまいりました。大学は2万3000人ほどの早稲田大学規模の総合大学で図書館(朝7時30分から夜中の12時まで)を始め、スポーツジム、カフェテリア(朝7時から夜中の2時半まで)、コンピュータールーム(24時間365日使える)、音楽室、寮、等様々な機関が学生のニーズに対応し、充実していました。田舎育ちの私は本当に驚き、全部を報告したいのですが、今回は図書館についてご紹介させていただきます。

1999年に建設され、真新しい巨大建物。四階建てで各フロアーによって少し特徴が違っております。一目惚れはコンピューター設備のよさ。私はMTSUに期待しており、PCは持っていかないという大胆なことをしてしまいましたが、期待以上に機能が充実しておりました。授業ではレポートとプレゼンテーションが毎週必ず鬼のように出され、調べる時間が一日の三分の一以上という日も多かったです。そんな時に、コンピューターは情報がどこの言語でも入手可能で(日本語も韓国語も)、図書館にある雑誌、図書の一部まで見ることが可能でした。普通図書までコンピューターで閲覧できるのです!目から鱗!スピードは速く、多量の情報を瞬時に得ることができ、本当にコンピューター様々でした。寝る時間の次に、自分の部屋ではなく(ルームメイトはもちろん好きだけど)、図書館のコンピューターの前

にいる時間のほうが圧倒的に多かったですね。印刷用紙は完全準備されており、一日に百枚程も(本当ですよ)印刷した日もありました。どこのフロアーにもスタッフがおり、分からないこと、問題が起きた時は懇切丁寧に御指導をしてくれます。司書さんが小学生から大人まで幅広い人たちを連れて、随時図書館ツアーをしていました。同じ授業を取っている生徒は私の知っている限りでは13歳(5年間分飛び級したかわいい女の子)から30歳の子持ちママ、パパ、そして60歳くらいの方までかなり幅広い年齢層でした。生涯学習が社会化、一般化されているのですね。児童文学の授業では現役小学校教師が研修でいて私も恥ずかしながら小学生のようにお世話されていました。見学の価値はありますね。800,000冊の大型書物、2,500個の勉強用の居心地のいい椅子、774個の個人学習机と椅子セット、350台のコンピューター、250,000平方フィート、43個のお友達と勉強会をする学習室、143個の院生用(実際院生以外も使えます)のロッカー鍵付き個人用学習席、そして3200万ドルの建設費ということです。

本当に利用者にとって使い易さを最高級に追及された図書館でした。コンピューターと図書館が一体となり、コンピューターからも15,000の定期刊行雑誌、何千と言うe-Bookが閲覧できます。

まず、一階は辞書、雑誌、いろんな言語の新聞(スペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語等)、印刷室、図書の貸し出し窓口がありました。二階はマイクロテキスト所蔵とそれを見るための器具。三階は小学校や中学校での教育の指導案、TN州選定の教科書など未就学園児保育教育から高校までの教育に関する図書がずらりとあります。児童文学をとっていたので三階で授業がありました。四階は事務室と特別コレクションです。

最初大学でパジャマでラフな格好をしている人を見たときは噴き出していましたが、とうとう自分もそのような服で夕方図書館にいたあの頃を思い出すと懐かしいですね。

リサーチ、レポート作成、テスト勉強の時に120%私を支援してくれた図書館には本当に感謝しており、そして部屋より居心地もよかったです(再度ルームメイト大好き!?)ですよ。

旧制高商外国人教師ゲーテンビーの講義ノートを受贈

附属図書館専門員 小椋 正行



本館では、旧福島高商時代に外国人教師として英語を教えていたゲーテンビー氏の蔵書や講義ノートなど103点を今年

4月公認会計士安斎勇雄氏より受贈した。

E.V.ゲーテンビー氏は英国ロンドン大学キングカレッジ卒、大正12年福島高等商業学校（現福島大学経済学部）に赴任し、太平洋戦争勃発後の昭和17年3月母国に帰るまで、19年間英語を担当しており、英語劇や弁論大会、英文雑誌の編集などの指導を通じて生徒に多大な影響を与えた。また、在日中、教鞭を執るかたわら、多数の著書を残しており、とりわけ『新英英大辞典』（開拓社）は外国人英語学習者のための辞書として共同で編纂し、初期の英語教

育において大きな役割を果たした人物である。

ノートは、来日して間もない1920年代半ばから1930年半ばまでの10年間の講義ノートが中心である。講義ノートについては、その時間に話すことが綿密に原稿として使えるほど書き込まれており、氏の「几帳面な授業」を彷彿とさせるものとなっている。内容は大きく3種類に大別される。「日本語勉強ノート」には、ローマ字によって日本語を書き写し、その意味を英語と対照させている。「英語の授業ノート」には、簡単な英会話から書き取り問題、そして英作文の方法についての講義も含めたもの。試験問題などもある。「英米文学ノート」にはギリシャ・ラテンから同時代の演劇論までを幅広く論じており、とりわけ16～17世紀のシェイクスピアを中心とした演劇論、18世紀の散文についての講義がある。歴史的な説明から作者の伝記そして具体的な作品について綿密なノートが作成されている。いずれもネイティブ特有な日本人には判別しがたい独特な文字で、几帳面に書かれているのが印象的である。

こんなものがあったのか！

～素敵な写真集がありました～

情報サービス係 蓮沼 徹也



『華美 Hanabi 満天百彩
恩田弘一花火写真集』

オンダ 2002.5

(請求番号：748/o65h)

とうとう10月になってしまい、夏という気分は大分薄れてきてしまいました。夏といえば、やっぱり「花火」です。太陽が西に沈みかけ、あたりがだんだん薄

暗くなり始めると、男も女も声をかけあって土手に集まってくるのです。ああ、いいなあ。浴衣姿の彼女と手をつなぎ、人ごみを掻き分けながら見る「花火」を、何度夢に見たことでしょうか！

今年も各地で花火大会が開かれましたが、皆さんは見る事ができたでしょうか。「最高の花火だった。」と満足している方にも、残念ながら今年は……

という方にもお勧めの本があります。それが、今回ご紹介する「華美 Hanabi 満天百彩 恩田弘一花火写真集」です。

これは、あらゆる種類の花火をオールカラーで楽しめる写真集です。多くの方は、思い出を残そうとして、花火を撮影しようとしたことがあるでしょう。しかし、花火とは一瞬にして咲き、また一瞬にして散るものです。本書では、この難題をクリアーし、最高のアングル、最高のタイミングで花火を撮影することに成功しています。

さらに、掲載された全ての花火は名前入りで紹介されており、花火を見分ける達人になりたい方にも、カタログとしてバッチリ使えてしまうのです。花火とより深いお付き合いをしたい、夏の思い出をもう一度……という時には、一度本書を手にとってください。本書は書庫の中にあり、貸し出しも可能となっております。

学内教官著作寄贈図書を紹介



『太宰治と外国文学—翻案小説の「原典」へのアプローチ』
和泉書院 2004.3
九頭見和夫 著
(教育学部教授)

本書は、太宰治と外国文学、特にドイツ文学との関係を中心に論じたものである。太宰治と外国文学という、「この人の作品ほど外国文学の影響云々を論じにくいものもない」とみなされ、太宰治死後半世紀になる現在もなおまとまった研究書が出版されて

いないのが現状である。太宰治の外国文学受容において大きな役割をはたしたものは一体何なのか。

本書では、奥野健男の分類に従えば、「中期」、すなわち井伏鱒二夫妻の媒酌で石原美知子と結婚し生活が安定した昭和14年以降に、太宰治が発表した外国文学や『聖書』等外国の文献から素材を取った多くの翻案小説、例えば「走れメロス」等を取り上げ、作品の素材となった「原典」を中心に作品の解明を試みた。なお本書は、「日本図書館協会選定図書」に選ばれた。

(学内刊行物コーナー 請求番号910.26/Ku99d)



『開かれる地平—
変わるふくしまの教育』
民報印刷 2004.3
高野保夫 著
(教育学部教授)

教育をめぐる改革状況は、想像を越える速さで進行している。福島県の動きも同様である。本書では、最近の若者文化の特徴、読書の環境づくりなどにも言及しているが、中心的なテーマは、福島の教育改革の問題である。

とくに第V章では、福島県学校教育審議会、第5次長期総合教育計画等での議論を踏まえ、今後の改革の方向性や学校現場が直面している今日的な課題を取り上げている。勿論、法人化される大学問題も例外ではあり得ないが、重要なのは、新世紀の教育や学びの地平をいかなる観点から展望するかであろう。

そのほか第IV章では、改革が進む国語教育の最近の動きと今後の言葉の教育のあり方を論じ、第二章では、戦争への若者世代の意識変化や変貌著しい中国社会の動向にも触れている。

(学内刊行物コーナー 請求番号370.4/Ta47h)



『関東・東北境界域言語地図
常磐線・磐越東線グロットグラム』
2001-2003年度科学研究費
補助金研究成果報告書
半沢 康 (教育学部助教授)
他 編

いわき明星大他と共同で
実施した科学研究費による

研究の成果報告書。福島県中南部から北関東にかけて、高年層の方言分布状況を言語地図によって、方言の変容・伝播の様相をグロットグラムによって把握した。今後報告予定の白河市内多人数調査の結果とあわせ、東北・関東境界域の方言の現況を総合的に分析する。

(学内刊行物コーナー 請求番号818/Ka86k)

その他の学内教官著作寄贈図書リスト

書名	出版社	出版年	著者	請求番号	所在
CD付き〔新版〕生きがいの本質	PHP研究所	2004. 6.11	飯田 史彦	159/I26i	学内刊行物コーナー
生きがいの教室	PHP研究所	2004. 4. 5	飯田 史彦	159/I26i	学内刊行物コーナー
人生において、「会社」とは何か	PHP研究所	2004. 5.24	飯田 史彦	159/I26j	学内刊行物コーナー

“情報探索マスターを目指せ！”

学術情報係

附属図書館では、学術情報を探するためのツールとして様々なデータベースや参考図書をご用意しております。パソコンを使用するツールについては、附属図書館のホームページ (<http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/>) 内の「情報探索ポータル」でご案内していますので、内容について簡単にご紹介します。

1. 図書情報を調べる	福島大学蔵書検索（OPAC）の他に、国立国会図書館の蔵書検索などがあります。図書を探したり、雑誌をタイトルから探したりする場合に便利です。
2. (国内の)雑誌情報を調べる	研究テーマに沿って雑誌論文の情報を収集するためのツールとして「雑誌記事索引」があり、論文タイトルや著者名から検索して雑誌の掲載個所を特定できます。他には「法律判例文献情報」（判例関係の図書・雑誌論文）などがあります。ただし、本文を入手するためには、実際に論文が掲載されている雑誌やDVDを利用する必要があります。
3. (海外の)雑誌情報を調べる	海外の学術雑誌は、インターネットで本文まで提供する「電子ジャーナル」という形態が一般的になってきています。福島大学で利用できる電子ジャーナルについては、「電子ジャーナル」のページをご覧ください。論文検索については「ingenta」（文献情報データベース）や「PubMed」（医学雑誌文献データベース）などが便利です。
4. 新聞情報を調べる	「朝日新聞」「日本経済新聞」「福島民報」の三誌について、記事から検索して本文まで利用することができます。特に「朝日新聞記事データベース」（DNA）の場合は、朝日新聞の他に「AERA」「週刊朝日」の記事を同時検索することができ、当日の朝刊の記事まで利用できるというメリットがあります。

他にも様々なツールがあり、「自分がどれを利用したらいいかわからない」「何だか難しそう」といった印象を持つ方もいると思います。附属図書館では、「情報探索基礎講座」として情報検索の体験講座を企画しておりますので、ぜひ一度参加してみてください。先にご紹介した1～4のコースごとに年に数回開催しており、2名以上のグループであれば、講座内容や日時をオーダーできる「オーダーメイド開催」も随時受け付けています。学術情報係にご相談下さい。

「シラバス参考図書コーナー」を設置。 ぜひご活用ください！

情報サービス係

本学の新制度設計によると「教育重視の人材育成大学」として、「カリキュラム改革」、「教員の授業改善（FD）」と「学生の学習環境の整備」が必要であるとされています。本館は、本年5月より、学生の授業内容にかかる予習・復習の利便を図るため、共通教育科目及び専門教育科目（大学院の開講科目は除く）の「シラバス」に掲載した参考資料を「シラバス参考図書コーナー」に配置いたしました。

このコーナーの資料は、いつでも閲覧できるよう

に貸出しない資料としております。担当教員名順に配置しており、資料には開講科目名、担当教員名がわかるようになっています。



学生のみなさん！シラバス参考図書コーナーを活用して成績アップにつなげてください。

使ってますか？オンラインサービス！

学術情報係

図書館ホームページには、学生用のページとして「学生ポータルステーション」、教員用のページとして「研究ポータルステーション」があります。“総合案内所”としていろいろなコンテンツを掲載して

いますが、その中に各種個人向けサービスの入口があります。現在行っているサービスは以下のものです。パスワードが必要ですので、未交付の方は図書館レファレンスカウンターまでお越しください。

サービス名	内 容	対 象
利用照会	自分の借りている図書のタイトル、返却期限日の確認	学生・教員
文献複写依頼	本館未所蔵の資料について他図書館への複写申込	学生・教員
レファレンス	いろいろな事項についての調査依頼	学生・教員
予 約	すでに貸し出されている図書についての貸出予約	学生・教員
資料購入依頼	担当係への資料購入の依頼	教員

今野源八郎旧蔵書—全点整理完了

情報管理係



今野源八郎旧蔵書全点の整理がようやく完了しました。

今野源八郎先生(1906-96)は、福島県相馬市に生まれ、東京大学名誉教授となられた後も生涯交通形態の変革を主張・実践し続けた交通経済学者です。

全蔵書の特色は、【資料】…戦前早くからの日本各地の運輸・交通関係の政策決定にかかわる中核的な生資料、【図書・雑誌】…経済学関係を多く含みますが、その他は、運輸・交

通・道路関係に重点をおいた収集になっています。また、留学中に収集した1930年代の米国・ドイツの経済・政策に関する出版物もあります。

学内外の研究者に広く活用していただきたいと思えます。

《今野源八郎旧蔵書冊数・点数》

【資料】和資料8,544冊 洋資料5,009冊 図面(地図)586種
【図書】和図書3,207冊 洋図書1,248冊【雑誌】和雑誌219種 洋雑誌75種

日曜開館と開館時間の延長 (平日：22時まで) ついに実現！

情報サービス係



本館は10月より、日曜開館の実施と平日の開館時間1時間延長(22時まで)を実施しました。

以前に行った利用者アンケートの結果によると、本学夜間主コースの学生から「開館時間の延長希望」が数多く寄せられ、また、社会人学生からは、「仕事時間や授業時間の重

ならない日曜日も開館してほしい」との意見が寄せられていました。

日曜開館は、一般市民の利用拡大にもつながり、生涯学習支援にもなることから今回の実施に踏切しました。実施するにあたって、利用促進のためのポスター(写真)を作成し、公共図書館、公民館、最寄のJR駅などに掲示を依頼し、広報に努めております。一般市民の方、小・中・高校の教員の方、本学サテライトに学ぶ学生など、多くの利用者に本館を利用してもらうことが実施の成功につながります。日曜日の過ごし方に「大学図書館でのひと時」を加えてみてください。

図書館の案内役はあなたです！

— カウンター
の内側から —

田中 信也

学部生のころの私は、図書館を試験と卒論作成のとき以外では利用したことが殆どありませんでした。その理由は単純に本を読むのが苦手だったからです。そんな私がこのまま大学院生になっても、研究や良い修士論文など書けるわけがない！ということにやっと気づき、図書館を有効に利用する方法を考えました。ただ利用しようと心に決めてもなかなか足が進まないのが私の性格なので、嫌でも図書館に入館する状況を作ろうと思い、カウンター業務のアルバイトをすることを決めました。

そして、院生になってから図書館のカウンターに初めて座った時、私の目は泳いでいました……。図書館を利用してこなかった私にとって、目に映るもの殆ど全てが見慣れないものだったからです。こんな私が仕事なんてできるのか、と正直不安になりました。しかし、職員の方の手厚いサポートや、利用者の方から学ぶということを繰り返すうちに、私の目も徐々に焦点が合うようになってきました。また、今までは知らなかったサービスも少しずつ利用するようになってきました。

0(ゼロ)からのスタートだった私でさえ、普通に図書館を利用し、自分の興味のある情報を得ることができるようになりました。また、本を読むことが

楽しくなりました。

カウンターの内側から目に映る景色は、いつも同じように感じています。つまり、いつも図書館を利用されている方がこの書棚を読まれているのではないのでしょうか。あなたの周りにも、以前の私のような図書館をあまり利用していない人がいるはずです。その人に声をかけて一緒に図書館へ連れて来て下さい。特に4年生ですが、あと数ヶ月後には卒論を提出し卒業してしまいます。残された時間を図書館で有効に活用してみてください。また、3年生も閉架図書のある書庫に入ることができる時期となりましたので、研究室の3年生を書庫に案内してみてください。

あなたから、一人でも多くの人に図書館の楽しさや奥深さを伝えていきましょう。

(教育学研究科2年)

